

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム和 2	評価実施年月日	平成20年7月14日～平成20年8月15日
評価実施構成員氏名	高橋真美、武田信子、浦島知里、櫛谷宏子、佐藤明美、佐々木泉、明石めぐみ		
記録者氏名	高橋真美	記録年月日	平成20年8月15日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>理念「和む場所で、その人の力を大切にあたりまえの生活をともに生きる」独自の理念を作り、言葉の捉え方を別に掲げ実践できる様に努めている。</p>	○	浸透しやすいように端的に示すことが必要と考えるので、検討していきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>理念を掲示し、日々意識出来る様に毎朝スタッフ全員で読み上げしている。共に読むことで認識できる機会となっている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>表玄関に掲示しているので来設頻度の多いご家族の方には理解を得られていると考えられる。地域には、運営推進会議やホームのたよりを通し紹介しているが、頻度的には少ない。</p>	○	わかりやすく伝えられる様、パンフレットやたよりを通して紹介出来る様に取り組みたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>たよりと自治会の協力もあり、近所の方の訪問があり一緒に過ごす機会があったが、日常的なものにはなっていない。昨年からはホームの外に犬を飼ってからは、近隣の方や通学途中の学生さんなど自然に来訪される事が多くなっている。</p>		3ヶ月に1回の頻度で喫茶店を行っているが、たよりにて地域の方の来訪も出来る様努めている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>お花見会には、自治会の参加をして頂いている。自治会の行事である敬老会や運動教室などに参加し交流を楽しんでいる。</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>キャラバンメイト養成研修や認知症サポーターの依頼があったが、取り組みには至っていない。</p>	○	出来る限り、地域にも目を向け協力出来る様、検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>昨年度の評価を参考に一つでも改善出来る様に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に1回運営推進会議の開催をし、生活状況や活動内容など報告し、質問や意見を受け、サービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>地域包括支援センター主催である2ヶ月に1度の地域ケア会議に参加し、各事業所の情報交換や実態を把握する機会としている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>研修にて学ぶ機会はあるが、積極的に理解を深めるまでには至っていない。現在、利用が必要な利用者は居ないが、今後、職員全員で理解出来る様努めていきたい。</p>	○	制度の理解に努め、職員全員に共有できる様に努めていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>市の虐待対応マニュアルに沿い、事業所内での伝達をし、共に対応を振り返りながら防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居の予約時や相談時には時間をかけ、生活状況や思い、不安な事を傾聴する様対応している。契約時には、理解されたかの確認をした上で行う様に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見や不満はその都度、傾聴し出来る範囲で反映できる様、努力している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	職員の移動については、月1度の個別のお便り時に別に記載をし連絡を行っている。体調の変化時などはその都度電話をし報告をしている。又、介護計画の説明時には時間をとりご家族からの意向を表現して頂ける様、対応している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時の重要事項説明書に苦情相談窓口を記載し、各フロアには意見箱を設置している。家族からの意見や不満、苦情を伺った際には話し合い、運営に活かしている。	○	家族会を設けていないので、今後検討をしていきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	社長、管理者、職員全員が参加する全体会議を2～3ヶ月に1度行っている。又、利用者個別のカンファレンス等を通して考えを共有する機会ともなっている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	夜勤者一名であり、夕方から就前まで不安になる利用者の状況もあり、遅出・早出体制を開始したが、人員不足で一時中止となっている。時間帯の調整など話し合いながらすすめている。	○	人員が確保されしたい、早出・遅出体制の再開を検討している。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動時や新職員が入られた時には、管理者や介護主任からの紹介をし、経験者のスタッフと行動をし共にゆっくりと関係を築いていける様配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>新職員に対し、グループホーム協議会の基礎研修受講を設けている。経験に応じ実践者研修など資格取得への費用も事業所負担としている。積極的な研修参加時には、優先をし勤務調整している。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>同業者との交流や連携が重要と認識し、グループホーム協議会に加入している。研修を通し情報交換や交流の場となり、サービスの質を向上させる努力をしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>職場でのストレスは、お互いに話せる環境づくりに努力している。又、全体会議を通して全員で共有する時間作りも行っている。勤務上、可能な時には有給を活用している。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>資格取得後には、賃金に反映している。その他に、向上心を持てる様な環境づくりには至っていない。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居相談時には、特に不安など様々な思いがあるので、話をよく聴く時間を確保し不安の原因を把握することに努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>家族の思いや困っている事、本人や家族同士との歴史や関係性など個別性があるので初期の段階ではあるがまます受け止める努力をしている。利用前には、自宅訪問により関係づくりの機会に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	殆どどのケースが、他事業所からの紹介にて入居相談をされるので、頻度としては少ないものの初期相談時に必要がある場合には、担当するケアマネージャーに連絡する様努めたい。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前には、必ずホームの見学を勧め可能な限り一度はホームの空間を体験して頂く機会づくりをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一方的な関係ではなく、人生の先輩であることを忘れずに今までの経験や得意なことを把握し、お花や野菜の苗植えや手入れなど知識を教えて頂くなどお互いに支え合う関係づくりに努めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	主に、ご家族への計画説明時に時間をかけて意向を聞いたり、以前の生活ぶりなども教えて頂く様、対応している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	疎遠になっているご家族もいるが、家族の心理状況も考えながら、来設時には職員から声かけをしゆっくりと距離を縮めていく努力をしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	馴染みの美容室や商店など可能な限り出掛けて行ける様努めている。又、家族の協力も得てお寺参りなど外出出来る様支援している。遠方の家族や知人には、電話での会話も配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	共同生活する中で、言い合いになる事もあるが必要以上の中入りはせず見守り、自然と関係づくりを出来る様配慮しつつ、状況によっては仲介役となっている。又、孤独を感じない様、共に楽しめる時間作りに努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された利用者やご家族とのつきあいは殆んどない状況である。事業所からの積極的な関係づくりはない。	○	今後、積極的に関係づくりをし可能であれば行事の際に一緒に時間を過ごすなど機会を設けたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を傾聴し把握する様に努めている。表現が困難な場合には、ケースカンファレンスを通して意見交換をし本人の立場になり検討する様努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にはご家族に書面として生活歴を記載して頂く協力を得ている。又、来設時や計画説明時など日々の中で今までの暮らしを捉えていくよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者の出来る事、部分的に出来る事、出来ない事を把握し、その人の力を大切にす様努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	計画立案時には、全員でカンファレンスにて気づきやアイデアを出し合っている。職員が気になる事などをご家族にも相談をし共に検討する機会を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的に3ヶ月に1度の見直しを行っている。本人・家族の要望や変化に応じて、期間に捉われず見直しをしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は、個別記録である暮らしのシート、私の求める関わり方シートに記入している。申し送りでも情報を共有し日々のケアに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族の状況に応じて受診の支援や本人の意向での買物やドライブなど柔軟な対応に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	個人ボランティアによるクリスマスに生演奏での音楽会や時に美容室のはからいで訪問して頂き行っている。消防署は、火災訓練・救急救命訓練を職員・利用者全員で受けている。警察ではSOSネットワークの紹介があり、協力を得ている。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現状では、美容は馴染みや近隣で行っているが、福祉美容師にて訪問美容も状況により活用していきたい。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて、連絡を取り合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得を得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	これまでのかかりつけ医の医療を受けられる様、本人・家族の同意のもと受診支援を行っている。受診同行時には、代弁者となり体調の報告をし結果はご家族に連絡している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	神経科に受診をし、状況の相談をし内服の調整の指示を受けているが、対応できるならば薬は服用しない方向性である。医師からの積極的な状態把握はされていないと感じているので、常に職員から状態を伝える努力が必要と捉え対応している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が常勤で配置し、週一回健康管理を行っている。健康管理以外の日でも、普段から気軽に相談や共に考える時間をつくっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、情報提供をし入院中には面会をし様子や状況把握に努め、退院時には家族と共に情報を得る様にしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	その時々本人・家族の意向を確認しながら、医療機関との話し合いも繰り返し対応し事業所内でも共有を図っている。状態の安定している普段から話し合う機会を定期的に設けていきたい。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末期に際しての、家族と話し合う機会を設けているが具体的な方針には至っていないので、今後も本人・家族の意向を把握することに努め、医療機関とも相談する必要がある。	○	職員全体で、重度化や終末期に備え、対応可能な具体的方針を話し合っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>現状では該当する方はいませんが、住み替え時には状況や習慣など暮らし方の情報提供に努めていく。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>親しみのある言葉の中にも礼儀を大切にし、職員間でもお互い指摘しあう様にしている。写真使用は、同意を得て行い、記録整備もしている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者が何を願っているのかを言葉としてだけでなく、行動や表情などで観察する力を養い、表出化出来る様努めている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ホームの基本的な流れはあるが、体調やペースを大切にし本人がしたいと思っていることは大切に、可能な限り対応している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の好みに合わせた服装や髪形など出来る様、努めている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の状況や力に合わせ、食事準備や後片付けを一緒に行っている。季節の山菜など一緒に下準備を行うことで季節を感じたり、調理法を相談することで楽しみの一つとなっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの好みや意向を大切にし、健康面への配慮をしつつ可能な限り対応している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツを使用しているも、トイレでの排泄が出来る様に排泄パターンを把握したり、パットやリハビリパンツなどその人にとってどれが合うか検討しながら行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日、時間の設定はしているが、可能な限り希望を大切にしている。午前からの入浴を行った際、満足されていたこともあったので、柔軟な対応に努めていきたい。	○	遅出体制が再開した場合、就前入浴も希望があれば行っていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一日の流れを通して、休息パターンを把握しゆっくりと休める様に環境づくりをしている。いつものパターンとは違う時には、外出などによる疲労があるので、配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの好みや楽しみ、力を発揮できる様に背景を把握し、花や野菜作りや家事、ホームの犬と触れ合うなど個々に合わせ支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望に応じ、家族と相談しながら所持できる様に努めている。希望されない方に対して、手持ちのお金の管理について検討していきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	生活の中でゴミ捨てや花や野菜作りなど自然と外出できる様に支援している。又、希望に沿い買物やドライブ、夏祭りなどへ安全に外出できるよう状況に応じ車椅子を使用し移動している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	数名で市外の特産品店や白鳥を見に行くなど外出出来る様支援している。家族と外出される方は特定されているが、温泉へ行ったりと楽しんでる姿がある。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	2名の方は、専用の電話を設置している状況で、設置していない方に対しても希望時には連絡をとれる様、本人の状況に応じて支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人、友人等の面会があり、気兼ねなくゆっくりくつろいで交流を楽しめる様、声かけやお茶の用意をしたり、食卓スペースの活用を勧めている。食事時間に近い場合の面会時には、忙しそうに見受けられる可能性があるため、配慮していきたい。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに関し、認識をもちどの様な思いでいるか検討しながら支援している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	施設での心理的影響は理解しており、午前9時～午後9時まで開放している。安全確保の為、出入りにセンサーがありインターホンが鳴るようになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、利用者の所在や様子を自然と確認をしている。記録上も居場所のチェック項目を設け統一してケア出来る様に努めている。夜間に関しても、利用者の状況を把握しやすい位置にいる。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の利用者の状態に合わせて、家族と相談しながら身近に置くなど検討している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々の状態から危険を検討し、話し合いを行い事故防止に努めている。ヒヤリハット・事故報告書の活用をし、職員全員で共有する様にしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全職員が消防による心肺蘇生法、誤嚥、出血や骨折時の対応方法について学んでいる。	○	定期的な訓練を検討していきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防訓練時には、悪条件の夜勤帯を想定し利用者も共に訓練を行っている。地域の力が得られる様、運営推進会議にて協力を求めている。	○	訓練時には、地域の人々が参加して頂ける様、運営推進会議にて協力依頼をしていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	主に介護計画説明時に、時間をとり家族と話し合いを設けている。抑圧感のない暮らしに対し、ホーム側の体制についても報告をし理解して頂ける様努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルサインチェックや食事・水分摂取状況、排泄状況など確認する習慣があり、変化時には常勤の看護師に速やかに報告が来ている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的や副作用について、薬品名カードにて確認やお互いに情報共有を行っている。薬の作用に伴う変化が考えられる時には、個別チェックの書式や口頭にて医師に相談している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便有無自体が不確実な状況があるので、行動や臭気などで確認をする様努め、水分摂取や適度な運動など行える様に努めている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝と就前に歯磨きの声かけや部分介助にて支援している。	○	昼食後の清潔保持に努めていきたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスを考え献立をし、個々に合わせて摂取し易い様な形態への配慮をしている。水分摂取量は毎日不足ないかを記録上にチェックをし水分摂取の必要性について認識している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策に努めマニュアルを作成し実行している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板や包丁の使い分けや消毒など毎回行っている。清潔・衛生管理に心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	裏玄関には、ホームの愛犬を飼い、近隣の方が立ち寄る機会が多くなっている。敷地内のパークゴルフが出来る空間があり、近隣の方も一緒に行う事もあった。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	歌が好きなお客が多いので、リビングには季節に合わせた歌を書き出し掲示している。過ごした居場所で自由に過ごせる様支援している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング2ヶ所と和室、食卓と共同空間は4ヶ所あり、一人で過ごしたり、同じソファで寄り添いながらおやつを交換するなど自由に過ごしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの物や好みの物を置かれたり、2名の方が仏壇を置かれている。居室には家族の写真を飾られている方が多い。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	入居者の反応を見ながら、温度調節は常時行っている。加湿器の設置をしている。Dr・ノア(超音波噴霧器)、インテリア造花にて脱臭・除菌を定期的に行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室内に本人専用トイレがあるので、状態に応じて家族の協力を得て手すりの設置をしている。居室とリビング間の歩行が困難になる場合、歩行状態を観察しつつ随時、椅子の用意をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	わかることや出来る事を支え、混乱や失敗した際には、その都度、何故かを話し合いをし対応について検討している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の裏には、パークゴルフが出来る様になっている事や、外回りにはプランターにて花や野菜を作っている。洗濯物や日光浴、愛犬と触れ合うことが出来る様に物干し竿やベンチ等もあり、活用されている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎日ある</li> <li>② 数日に1回程度ある</li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての家族</li> <li>② 家族の2/3くらい</li> <li>③ 家族の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ毎日のように</li> <li>② 数日に1回程度</li> <li>③ たまに</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)